

新川地区 まちづくりビジョン



令和 4 年 5 月
新川まちづくり協議会

はじめに

『コロナで延期』『コロナで中止』このような言葉が地域の活動にいつも付きまとい、思うような活動ができない中、オール新川でまちを活気づけようという声がけに賛同いただいた団体の皆様と、令和3年12月に設立した『新川まちづくり協議会』ですが、当初目指していた令和4年4月新川まちづくりセンター自主運営開始が、半年延期して令和4年10月開始を目指すことになり、地域の皆様を落胆させてしまったことを、まずはお詫び申し上げます。

この半年、役員だけではなく、地域のすべての人が、それぞれができることでまちづくりにかかわる活動に参加いただけるよう、連絡調整を図る拠点として地域の手でまちづくりセンターを生まれ変わらせたいという思いがますます強くなり、自主運営開始のスタートラインもようやく見えてきました。

この春、3年ぶりに新川地区で開催された『新川夜ざくら 2022』は、広く告知することなくひっそりと開催しましたが、偶然通りかかった方々にも大変喜ばれました。その中で以前新川地区に住んでいたという男性が、お子さんと一緒に夜ざくらを楽しんでくださったのですが、「新川はいつの間にこんなに人が集まる観光地になったんだ？」とおっしゃた言葉が心に残り、地域の人たちの活動が評価されたという思いで胸が熱くなりました。今回のイベントは地域に住む若い世代の協力者が新川を盛り上げたいという気持ちで、ライトアップの準備に尽力いただいた経緯もあり、このように考えている若い世代が新川にはまだまだいるはずだと確信しました。

自助 互助 共助 公助の連携で、世代を超えて地域のすべての人が、活気あふれるまちで安心・安全に生き生きと暮らせる魅力的な新川になるよう、オール新川でチャレンジしてまいります。皆様にもこの趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いいたします。

令和4年5月25日
新川まちづくり協議会
会長 佐久間 五十也

目 次

第1章 まちづくりビジョンとは	1
1. ビジョンの位置付け	1
2. ビジョンの策定経緯	2
第2章 新川地区の概要	6
1. 位置・周辺環境	6
2. 人口構成の変化	6
人口構成の変化（グラフ）	7
第3章 まちづくりの現状や課題	9
1. 福祉・教育	9
2. 防犯・防災	10
3. 環境	11
4. その他	12
第4章 まちの将来像と目標	13
第5章 目標の実現に向けた取組	15
ビジョン 1 子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくり	15
ビジョン 2 安心・安全で災害に強いまちづくり	15
ビジョン 3 きれいで魅力あるまちづくり	15
ビジョン 4 活気とうるおいのあるまちづくり	16
第6章 ビジョンの推進に向けて	17
【参考資料】	
新川まちづくり協議会構成団体一覧	18
新川地区地図	19
新川まちづくりセンター自主運営開始までの流れ	20
令和4年1月以降に寄せられたご意見など	21

第1章まちづくりビジョンとは

1. ビジョンの位置付け

新川地区は、旧琴似町である琴似、新川、新琴似、屯田の各地区に屯田兵が入植し、開拓の鋤をふるったことに始まります。

あれから 130 年以上の時が経ち、先人の手により作られた新川（人口運河）の流れに沿って東西に 7.5km と長い範囲に住宅地、小・中・高校などの教育施設、商業施設が立地します。また、JR 新川駅も立地し、多くの人々が暮らす地区となりました。

新川地区の人口は約 27,700 人、世帯数は 13,700 世帯を超え、多くの人々の暮らしの拠点として成長してきました（令和 3 年 10 月 1 日現在）。20 年前には、人口約 27,300 人、世帯数約 10,800 世帯のうち老年人口の割合は 13.8%でしたが、現在は 29.3%に上昇しています。逆に年少人口の割合は 15.6%から 12.4%に減少し、少子高齢化の波は例外なく私たちのまち、新川地区にも押し寄せている状況です。

これらを背景に、新川地区のまちづくりの課題も顕在化しています。こうした中、今ある多くの資源を活用し、さらに新川地区に暮らす人・関わる人達が組織や立場、世代を超えて『連携・協力』しながら将来のありたい姿に向かってまちづくりに取り組んでいく必要性を見出しました。

そこで平成 28 年に『新川地区コミュニティーネットワーク会議』（以下 C ネット会議という）で議論された『新川まちづくりビジョン』を再度皆で練り直し、新川まちづくりセンターを自主運営化し、地域の活動拠点としてその中心に据えるべく、「この先もずっと住み続けたい新川地区」を具現化する『新川まちづくりビジョン』を改定しました。将来を見据えたまちづくり活動の指針とするものが『新川地区まちづくりビジョン』（以下「ビジョン」という。）です。このビジョンには C ネット会議の構成団体が集まって話し合った結果を集約した内容を盛り込んでいます。C ネット会議はこのビジョンをふまえ、構成団体や地域の皆様と地域課題の解決に向け

て着実な一歩を進める町内会や関係団体の垣根を超えた『新川まちづくり協議会』（以下「協議会」という。）の設立が可決されました。また、住民や地域団体等でビジョンを共有し、変化の時代にあって、今後実施する事業は果敢に見直しを図りながら、事業に応じて関係団体が連携協働して効果的に取り組んでまいります。

2. ビジョンの策定経緯

ビジョンの策定にあたり、新川地区では新型コロナウイルス感染拡大が落ち着きをみせた時期を見計らって密を避け、新川さくら並木連合町内会の役員を中心に、3回のワークショップを開催して原案の作成にあたりました。この際、平成28年に作成されたビジョンを参考に、令和3年版ビジョンの原案を作成し、2回のCネット会議で原案について検討し、このビジョンが承認、完成いたしました。

新川地区は新川さくら並木連合町内会(以下「連町」という)に加入する11の町内会のほかに、4つの休会中や未加入の町内会、自治会があります。縦長の新川地区において連町加入の町内会であっても一堂に会して活動することが難しい一面は以前からありました。

また、単位町内会の中にも役員のなり手不足から、複数役員の掛け持ち、休部といった事態になり今後の円滑な活動に支障を来す可能性も出始めました。これは町内会役員に限らず、民生委員をはじめ関係諸団体の役員においても欠員や掛け持ちといった状況になり、このままでは地域の将来に光が差さないかもしれないと感じられるようになってしまいました。

このような状況に追い打ちをかけるように、令和2年2月からは新型コロナウイルスが猛威を振るい、ほとんどすべての町内会関連行事が中止になる中、孤独死や認知症が急速に悪化した高齢者の徘徊などが相次ぎ、貧困にあえぐ家庭も増え、まさに出口が見えない長いトンネルを走るような気分になった人も少なくありません。

このような状況で、いつかよくなるだろうと受け身で待つのではなく、自分たちの住む地域の問題はまず、自分たちで解決を試みよう。それでもできないときは行政に相談して協力してもらおうという考えのもと、町内会の壁を越え連帯して、助け合い地域の明るい未来のために協働することの重要性

が認識され始めました。

そこで注目されたのがまちづくりセンターの自主運営化です。直営のまちづくりセンターの職員では、地域の実情に合わせたきめ細やかな対応を持続的にすることは不可能に近く、安定的に継続した取り組みができません。地域のことを一番よく知る地域の住民が、地域の実情に応じたまちづくりセンターを運営して、「地域の事務局」「地域の相談や情報共有の窓口」として機能させることが急務であると考えました。

私たちは今回の取り組みを進めるにあたり、「無から一」を生み出したわけではありません。過去にも同じように自主運営化を目指してCネット会議で策定、承認されたまちづくりビジョンを、バージョンアップさせ、先輩たちがかなえられなかった自主運営化を実現するべく、文字通り地域の問題を地域の手で解決に導くために独自に活動し、令和3年度版のビジョンを完成させることができました。

コロナ禍の中でこのように短時間でビジョン策定ができたのは、先輩たちが時間をかけ丁寧に策定してくれたビジョンがあったおかげだと、心から感謝しています。

今回、自主運営化するまちづくりセンターの受け皿となる『協議会』の設立の承認と自主運営化申請、ビジョンの承認をいただきましたが、ここに至るまでの取り組みについて時系列で説明させていただきます。

- ① Cネット会議で提案するビジョンを作るために連町役員が中心となって令和3年10月6日に第1回新川まちづくりセンター自主運営化推進委員会がワークショップを開催しました。

「福祉・教育」「環境」「防災・防犯」「その他」のキーワードを設定し、地域の良い点・悪い点・今現在の困りごとなど、「まずは地域の現状を知る」ことから始めました。ワークショップ参加者からは、自分の地域だけの問題ではなく地域全体の問題点があるという共通認識が生まれ、最初は不安や必要性を感じなかったまちづくりセンターの自主運営についても、やってみてもいいのではないかという意見も出ました。

- ② これらの浮き彫りになった問題点、課題をもとに「では、どのようにしてこれらの問題点や課題を改善・解決に導くか」を考える第2回新川まちづくりセンター自主運営推進委員会のワークショップを10月27日に開催し、平成28年に完成したビジョンも参考にアイディアを出し合いました。

- ③ 令和3年11月4日には第1回新川地区Cネット会議を開催し、構成団体代表者の皆様に今回の自主運営化を目指した経緯とビジョン策定の途中経過を説明し、ご意見を頂戴いたしました。

この場でも、自主運営に関して質問、賛成の意見が出されましたが、会議の場で意見を出し尽くすことができないことから、各団体が提案を持ち帰り、協議して質問やご意見をアンケートに記入してお寄せいただくことといたしました。

また、自主運営化を進めるか否かの最終判断は第2回のCネット会議で採決を取ることを取り決めました。

後日、実際にいくつかの団体からご意見を頂戴し、これを加え次の推進委員会で、Cネット会議に提案するビジョンを決めることになりました。

- ④ 令和3年11月18日の第3回推進委員会においてCネット会議の場で提案するビジョンの4つの柱が決まりました。

- ⑤ 令和3年12月2日第2回Cネット会議で新ビジョンと自主運営化の申請・受け皿となる協議会の設立が承認され、協議会の役員、規約も協議、承認されました。

役員については連町役員に偏らず、Cネット構成団体から広く人選ができ、満場一致での承認となりました。

次に、地域における合意形成に関して、新川地区は先にも記した通り役員が様々な団体を掛け持ちする率が非常に高く、広く告知、賛同を得るために、臨時総会等で可否を問うのではなく、地域の皆様に今回の件をチラシでお知らせし、単位町内会ごとに賛同書をいただきました。(令和3年12月上旬)

ご意見等は今後も継続的に電話、F a x、メール、ホームページから集めます。ホームページからは札幌市の公式ページの「まちセン」や「自主運営」の説明ページを閲覧できるようにリンクを張り、閲覧者の検索の負担を減らす工夫をしています。

令和 3 年 12 月下旬、北区からのアドバイスを受けすべての構成団体の総会、定例会議等で再度、自主運営化について同意いただけるか再確認することになり、令和 4 年度の総会や、年度初めの会議等で自主運営化同意の再確認、ビジョンの告知を行い、こちらでも連町、単位町内会他、各団体から同意をいただくことができました。

地域に配布したチラシの枚数は下記のとおりです（令和 3 年 11 月、令和 4 年 2 月の 2 回配布しております）

- 1 町内会加入世帯には回覧板で（約 750 枚）
- 2 町内会非加入世帯には全戸配布で（約 2, 000 枚）
- 3 ホームページを作成しスマホやパソコンからも閲覧可能にしました

地域からのご意見が 12/10 現在電話で 1 件とメールで 1 件寄せられています。（それ以降にも寄せられた意見等がございます。内容は別紙でご確認ください。）

- ◎ 『個人情報に記載されている証明書の取次業務を素人に任せるのはいかがなものか』
- ◎ 『自分たちもできることを頑張って活動している。高齢化や役員のなり手不足は深刻だ。まちセンに期待している。私たちの活動の存続にもつながればうれしい。』という二つの意見が寄せられています。

令和 4 年 5 月 25 日現在、ご質問などが少しずつ寄せられております。地域の皆様に関心をもていただけたものと思われまます。

今後も寄せられたご意見を、まちづくりのビジョン実現への参考とさせていただきます。

こうして、北区からアドバイスいただいた地域の合意形成の基準もクリアし、ようやく新川まちづくりセンター自主運営化に向けた申請の準備が整いました。

第2章 新川地区の概要

1. 位置・周辺環境

新川地区は、北区の西側に位置し、新川通りに沿う形で縦長な地区となっております。地区内には高速道路の IC や JR 新川駅があり、新川通を利用することで札幌中心部へのアクセスが良い地区となっています。交通の利便性が良く、小・中・高校 などの教育施設、商業施設の立地など生活しやすい環境となっています。

2. 人口構成の変化

新川地区の世帯数は、平成 13 年度時点で 10,856 世帯となっています。令和 3 年度では 約 3,000 世帯増え 13,739 世帯となっています。しかし、人口はというと、20 年前の平成 13 年が 27,364 人に対し、令和 3 年は 27,751 人とわずか 400 人しか増えていません。

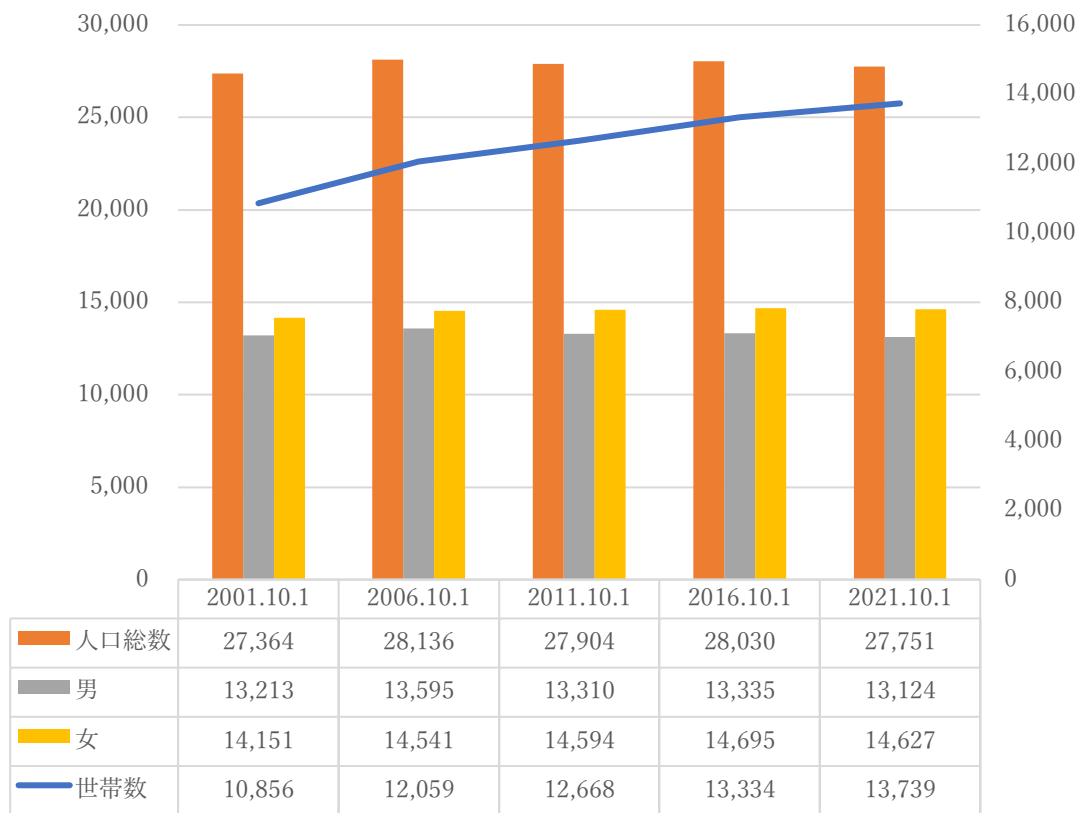
年少人口（0～14 歳）はこの 20 年間で約 3 ポイント減少とわずかに減少しています。

一方老年人口（65 歳以上）が約 15 ポイント以上も増加するなど、少子高齢化が一層進み地域活動や子育て環境などが変化しています。また、生産年齢人口（15～64 歳）については、この 20 年間で約 12 ポイントも減少し地域の活動に積極的に参加、協力していただきたい年代の減少が痛手となり、将来にわたって担い手不足の問題は町内会存続の大きな障害となりつつあります。

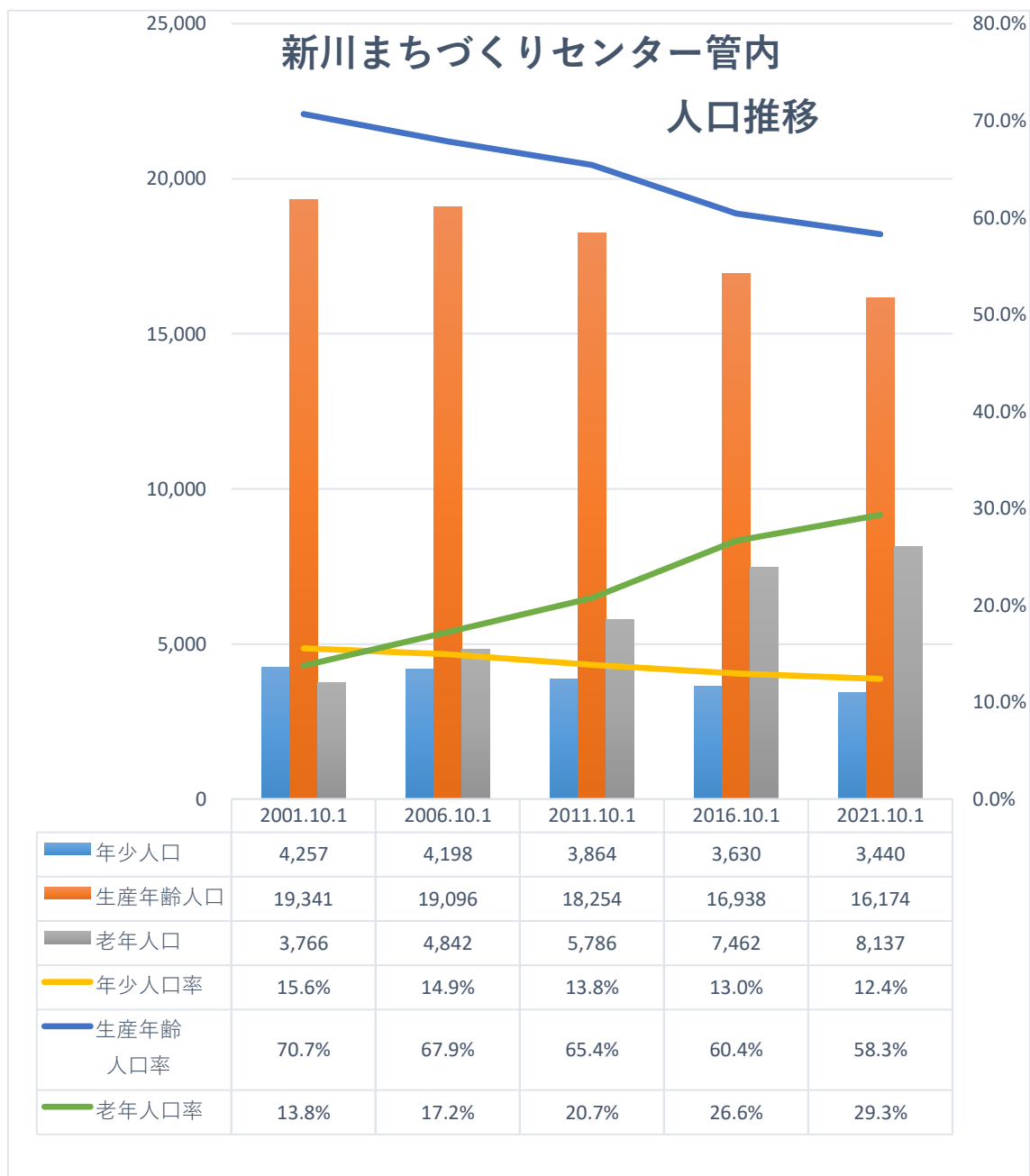
町内会役員の高齢化が進むことで、担い手不足から夏まつりや運動会などの地域の伝統行事が廃止・縮小し、新型コロナの影響で大人数が集まるイベントも開催できず、子どもたちにとっても、高齢者にとっても楽しい交流の機会が失われつつあります。高齢者には健康で生きがいをもって、生き生きと活動する機会を増やし、子どもたちには遊びや就学環境の変化に対応した健やかに学び、遊べる環境づくりが重要になっています。このように人口構成の変化は、地域の活動に大きな影響をもたらす要因となります。

（人口の推移につきましては数値をもとにグラフを作成しましたので次頁をご参照ください）

新川まちづくりセンター管内 世帯数・男女別人口



↑↑↑
新川さくら並木の風景



新川さくら並木
夜ざくらライトアップ
⇒⇒⇒



第3章 まちづくりの現状や課題

① 福祉や教育に関して出された意見

子育て世代が集まる場所が欲しい
高齢者との密なる連絡が取りづらい
高齢者が気軽に集まる場所が欲しい
集会場のような気軽に立ち寄れる場所が欲しい
通学に危険な場所に信号機を設置してほしい
サロンに参加できない老人の対応に工夫が必要
高齢者・独居老人の増加、高齢化
子どもの減少、体験不足
町内会・子ども会等の役員のなり手不足
高齢者・独居高齢者の見守りが思うようにできない
民生委員が不足している・なり手がいない
高齢者・独居高齢者の見守り
高齢者の把握が難しくなっている
見守る側の高齢化
子ども達のよりどころ作り
子ども会の衰退・子ども向けの行事
地域の理解を深めるため学校へゲストティーチャー活用
地区会館で開催しているサークルや講座が少ない
親身になって話を聞いてくれる人や、場所が少ない
何をするにも高齢の役員が頑張っていて、若い人がいない
学生が演奏会などをするのはいいことだと思う

人が集まる場所の確保を望む声や、役員の高齢化、なり手不足を懸念する声が挙がっていました。また、見守り活動が思うようにできないもどかしさを感じている人も多いようです。

② 防災や防犯に関して出された意見

災害時の避難対策不足
避難場所（公共施設）がない
防災意識の向上・自主防災組織の機能化
防災資材の使い方がわからない
緊急時の高齢者対策
防犯・交通安全体制の整備・充実
防災・防犯に関して無関心
特殊詐欺被害が地域で発生・啓蒙活動が必要
防災対策の検討が必要（防災用具の準備）
災害時障がい者避難の手伝いが難しい
テント不足
防災広場の管理が負担大
災害の種別・季節に応じた訓練の実施
古い防災資材の入れ替えが必要・資材の充実が困難
深夜営業の大型店近くの公園に青少年が遅くまで集まる
空き家が多い
パトロールや特殊詐欺防止の啓発活動などありがたい
自分が小学生のころから同じ人が朝の見守りをしている

災害時の避難場所に関する不安や、備えに対する不安など行政に働きかけが必要な部分も浮き彫りになりました。空き家や公園等でのトラブルを未然に防ぐ対策も急務のようです。

③ 環境に関して出された意見

町内の美化意識と活動
ごみステーション当番の除雪作業
町内会未加入者の利用
ごみ捨てルールの徹底
資源回収などの参加者不足
高齢化が進みごみ出しのルールがわからない
ごみステーションの根本的な改善を行った
町内清掃時、非会員の協力不足
ごみステーションに不法投棄が多い
ごみステーション機材の取り換え
庭木の処理・カラスの巣撤去など資力がない
ごみのポイ捨てが多い
子どもが遊べる公園が町内会に欲しい
公園にトイレがない・遊具不足
公園内の樹木が大きくなりすぎ
ごみステーションの機材助成額を引き上げてほしい
高齢者ごみの分別ができなくなっている
高速の IC や JR の駅があり利便性はよい
せっかくさくら並木があるのに活用できていない

ごみ問題が最重要課題となっています。町内会で設置、管理しているごみステーションの利用について検討が必要です。また、公園など公共施設の問題については行政に働きかけが必要です。

④ そのほか、WS 中で出された意見です。

若い人たちとの交流
役員の担い手不足・高齢化
女性役員が少ない
札幌市の仕事を町内会に投げすぎて負担が大きい
文化・スポーツの充実
若者が無関心・参加者の減少
集会にはお土産が必要
コロナ問題の解決が第一
文化祭の開催
町内会加入率低下
役員のなり手不足・仕事で十分な活動ができない
マンション居住者との交流
新川地区と JR 札幌駅直結バスが必要（市立病院経由）
地区内に図書の貸し出し場所がない
まちづくりセンターの場所が地区の中心にない
まちづくりセンターの場所がわかりづらい
新川は縦長なので全体で何かをするのが難しい
町内会加入率を上げたいが良い方法が見つからない

担い手不足をいかに改善するか、知恵を絞って解決に向かいたいと思います。また、工夫次第で解決できることもあるようなので、引き続き検討してまいります。

第4章 まちの将来像と目標

新川地区の現状や課題をふまえて、課題を集約しどのように解決に導くか、アイデアを出し合いました。

① 福祉・教育に関しては

- ・子どもたちにも積極的に行事に参加してもらい、世帯交流を図る
- ・子どもの居場所を作る（ミニ児童会館の開設など）
- ・子どもの活動に親も協力してもらう
- ・高齢者の買い物支援・移動支援の検討
- ・町内会活動にお誘いして、引きこもり防止対策
- ・高齢者の交流場所（サロンなど）の増設
- ・福まちを機能させて見守り、声がけ、相談相手になる

上記のように子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちを作ろうという意見でまとまりました。

② 防災・防犯に関しては

- ・小規模な防災研修の継続実施
- ・高齢者・障がい者誘導の計画とマニュアル作成
- ・高齢者・障がい者も参加する防災訓練の実施
- ・空き家周りの環境整備
- ・各町内会の防災活動を紹介する
- ・子ども避難場所。SOS 子どもの家の拡充・周知

上記のようにいざという時にちゃんと備えている、安全・安心で災害に強いまちを作ろうという内容がまとまりました。

③ 環境に関して

- ・ ゴミステーションの管理について、当番制の導入・行政への相談
- ・ 清掃活動の継続・充実
- ・ さくら並木の活用方法を考えよう
- ・ 街並み（景観）づくりを考えよう

このように、一番の懸案事項はゴミステーション管理にかかわる内容となり、これに関しては、行政の協力も必要な部分であるとの見解で一致しました。

また、札幌市のみならず、全道、全国的にも取り上げられる機会が増えた『新川さくら並木』を活用し、地域の魅力発信と景観づくりも必要です。

④ その他

- ・ 町内会未加入世帯への加入促進の工夫が課題
- ・ 仕事をしていても、リタイア後でも、介護をしていても参加できる活動の充実
- ・ 役員組織の統廃合、女性役員の登用
- ・ 学生とタグを組んでイベント開催
- ・ 目玉となるようなイベントの開催
- ・ 既存サークルの活動から新たな活動を模索する
- ・ 活動を披露する場の提供
- ・ 子育て世代のママたちが活躍できる場所の提供

上記のように多岐にわたる意見やアイディアが出されました。まちづくりは一部の住民だけが行うものではなく、だれでも参加する機会があることをしっかりとお知らせして、みんなの力を出し合って次世代に引き継ぎたいという思いを再確認しました。

第5章 目標の実現に向けた取組

2回開いたワークショップと、1回目のCネット会議でお伝えした地域の課題と、今後の方向性をもとに、3回目のワークショップでこれからの新川地区が目指すビジョンを4つ掲げ、2回目のCネット会議で正式に『新川まちづくりビジョン』が承認されました。

4つのビジョンについて説明します。

☆第1のビジョンは『子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくり』です。

子どもがのびのびと健やかに成長でき、高齢者も生きがいをもって安心して暮らせるまちづくりを目指します。

今現在の新川地区において最も優先度の高い目標となります。

☆第2のビジョンは『安心・安全で災害に強いまちづくり』です。

防災・防犯・交通安全に関する取り組みを通して、子どもも高齢者も、健常者も障がい者もすべての地域住民の安全を守る、安心して暮らせるまちづくりを目指します。

☆第3のビジョンは『きれいで魅力あるまちづくり』です。

全国的に有名になりつつある『新川さくら並木』がある新川地区の魅力をこの先も保ち、そこに住む住民も環境を整備し、気持ちよく住めるまちづくりを目指して様々な活動に取り組みます。

☆第4のビジョンは『活気とうるおいのあるまちづくり』です。

地域のつながり、住民同士のつながりが希薄になりつつある今の時代に、再び活気を取り戻し、皆がそれぞれの得意分野でまちづくりに参加し、住民の心がうるおうまちづくりを目指します。

具体的に挙げられている活動は以下のものですが、この先協議会の役員に限らず、広く地域からアイデアを集めていきたいと考えています。

- ① 福まちのよろず相談室
- ② 地区会館図書コーナー新設
- ③ ほっとひと息 子育てカフェ
- ④ まちセン所長 出張茶話会
- ⑤ フードバンク なんでも交換会
- ⑥ 地域防災訓練
- ⑦ クリーン散歩スタンプラリー
- ⑧ さくらいっぱい運動
- ⑨ ボランティアポイント
- ⑩ 新川の魅力発信（SNS）
- ⑪ 学生とコラボ音楽祭

などたくさんアイデアが寄せられています。



⇐ 2021.12.02
第2回新川地区
Cネット会議の様子

第6章 ビジョンの推進に向けて

平成28年のワークショップを引き継ぐ形で今年度5回のワークショップや意見交換を経て、これらのビジョンを作り上げることができました。

このビジョンを今後の新川地区におけるまちづくりの指針として、オール新川で進めていきたいと思います。

しかしながら、役員だけで企画をしても実際に地域住民が興味を示さなければ、活動は実現できません。いかにしてみんなが参加したいと思うような魅力ある活動につなげていけるかが大切かと思います。役員のみならず地域住民から広く意見やアイディアを出していただき、小さなことから一歩ずつ進んでまいります。

将来的に新川地区の発展を担う、若い世代に少しでもいい形でバトンタッチできるよう地域一丸で取り組むまちづくりを目指します。



設立総会にお集まりいただいた新川まちづくり協議会のメンバー

新川まちづくり協議会 構成団体一覧

令和3年12月2日現在

新川さくら並木連合町内会(役員・単町会長)
新川第1町内会
新川第2町内会
新川町内会
ビレッジハウス新川自治会
新川地区社会福祉協議会
新川地区民生・児童委員協議会
保護司会新川分区
北更正保護女性会新川分区
北区第3地域包括支援センター
北区介護予防センター新川・新琴似西
新川地区青少年育成委員会
新川中学校区青少年健全育成推進会
新川西中学校区青少年健全育成推進会
新川児童会館
新川中央児童会館
新川地区子ども会育成連絡協議会
新川交通安全運動実践会
北交通安全協会 新川支部
新川交通安全母の会
新川防犯協会
新川中央地区防犯パトロール隊
新川・新光交番地区少年補導員
北消防団 新川分団
新川少年消防クラブ
新川地区防火委員

新川地区スポーツ推進委員
新川中央体育振興会
新川スポーツ振興会
新川体育振興会
新川地区緑化推進協議会
新川地区クリーンさっぽろ衛生推進員
新川中央小学校
新光小学校
新川小学校
新琴似南小学校
新川中学校
新川西中学校
新川高校
札幌国際情報高校
新川幼稚園
そうせい幼稚園
新川保育園
新川北保育園
新川地区老人クラブ連絡協議会
親和会
むつみ会
福寿会
西札平成会
新川さんよこ商工振興会
新川地区統計調査員協議会
新川さくら並木町内会加入 11 町内会

合計62団体

さくら並木をシンボルに人と地域がつながるまち



現在「新川」と呼ばれている地域は、屯田兵が苦勞して開拓した後に定住した地域です。
現在では世帯数1万3千を超え、人口2万8千人の大きな町に発展しました。
元々は川の名前だった「新川」は、町名や通りの名前にもなっています。

新川という川

「新川」は明治20年頃に造られた延長12.5kmにわたる人工的な川です。小樽や銭函から荷物を運ぶとともに、付近を流れる発寒川などの洪水を防ぐために造られました。



新川のさくら並木は町内会で実現させた新川の誇りです。
平成9年、河川法の改正により、堤防への植樹が可能となり、悲願だったさくら並木造成事業が町内会を中心に始まりました。
地域住民や企業からは約2800万円もの寄付が集まり、十勝で育てられていた寒さに強い丈夫な桜の若木を購入し、新川の堤防に植樹しました。平成10年から3年間で755本、延長7.5kmに及ぶ植樹が完成し、現在では札幌有数の桜の名所となりました。

新川地区にある町内会

1 新川第1町内会	9 新川ボプラ町内会
2 新川第2町内会	10 新川東町内会
3 新川第3町内会	11 新川みどり町内会
4 新川第4町内会	12 ビレッジハウス新川自治会
5 新川第5町内会	13 新川町内会
6 新川第6町内会	14 新川西札幌町内会
7 新川中央第7町内会	15 新川公園町内会
8 新川第8町内会	

自主運営開始までの流れ

平成 28 年 新川地区コミュニティネットワーク会議開催
ワークショップにて「まちづくりビジョン策定」

令和 1 年 7 月 新川地区コミュニティネットワーク会議開催
「新川地区まちづくりビジョン」を再検討

第 1 回新川まちづくり自主運営推進会議(R3.10.6)

「まちづくりセンターの自主運営」「新川の現状と課題」



第 2 回新川地区まちづくり自主運営推進会議(R3.10.27)

「新川の課題」「解決への方策」

第 1 回新川地区コミュニティネットワーク会議(R3.11.4)

「まちづくりセンターの自主運営決定」「ビジョン策定に向けて」

第 3 回新川地区まちづくり自主運営推進会議(R3.11.18)

「ビジョン策定と実現方策」「新川まちづくり協議会規約」

第 2 回新川地区コミュニティネットワーク会議
新川まちづくり協議会設立総会(R3.12.2)

「令和 3 年 12 月版新川地区まちづくりビジョンの承認」
「新川まちづくり協議会規約決定」「役員選任」



令和 4 年度版の「新川まちづくりビジョン」を策定。広報紙・ホームページ等で
引き続き意見募集

各構成団体の令和 4 年度総会等で再度自主運営化同意の確認、ビジョンの告知を
行う→新川まちづくりセンター自主運営化について承認を得た

新川まちづくり協議会総会開催 令和 4 年 5 月 25 日
新川まちづくりセンター自主運営申請

令和 4 年 10 月 1 日 新川まちづくりセンター自主運営開始

まちづくり協議会に寄せられたご意見など（令和４年５月２０日現在）

①４月末にメールで寄せられたご意見

メッセージ: 匿名で失礼致します。

町内会の総会資料を見て、はじめて新川地区まちづくりビジョンというものを知りましたので、現状思っていることを述べさせていただきます。

【この地区の魅力】 桜並木だけで特にはないと思います。又、あっても知られていないと思います。元々他の区に住んでおりましたが、北区の麻生より北側はただの昔からある住宅街というイメージがあるので、この地域の魅力的には乏しいのかなと思います。

【子育て世代の不足】 子育て世代が不足しているということでしたが、それは仕方のないことであるとも思っています。30代には地下鉄のアクセスが抜群の分譲マンションが人気であり、この地区に多い戸建住宅を建てるとなると、土地代の高騰、木材の高騰もあり30代の平均年収からすると厳しいため、地下鉄駅圏内の賃貸アパートや中古分譲マンションになってくると思います。そのため、この地区へ子育て世代が入っていることはなかなか厳しい状況にあると思います。

【魅力を作る】 この地区に住んでいてまず思うのは、景観が悪いことです。昔からある街なので仕方ないとは思いますが、
・昔からの家が多いのでちょっと古臭い（これはしかたないです）
・緑が乏しい（花壇が封鎖されていたり）
・路上のアスファルトボロボロ
・路上駐車が当たり前
・ペットのマナーが悪い
仕事上札幌市全域を車で通りますが、街の美観的には良くないほうだと思います。良いのは、豊平区の豊平、月寒や円山地区、西区の山の手西町あたり。美観を良くしようと花壇を整備したり、町内会として動いている感じがします。特に、景観を損なうペットの排泄や路上駐車への対応は厳しいように感じています。この新川地区ではペットのマナーも悪いし（冬の期間、家の前で何回排泄されたかわかりません）、雪が降っても路上駐車している家が多い。自分達で自分達の家（地域の）価値を下げている行為だと思います。たぶんそこまで考えてないのでしょうか。最近人気の高い、厚別区

は再開発が進んでおりマンションや大型商業施設が建設されたりで人気上昇しておりますが、企業誘致するしかそこらへんに勝てるわけではないと思います。では、どうすれば、この地区の人気を高めるかとなると、まずはできる緑、花を多くする、ペットのマナー、路上駐車に対応をするなどの簡単にできることから始めれば良いのではないのでしょうか。それにより、この地域の見た目も良くなり、子育て世代も魅力を持ってもらえ、移り住んでくる方も多くなるのではないのでしょうか

②4月末に新川さくら並木連合町内会代議員から寄せられたご意見
これだけの資料の作成に、同業者として敬意を表します。
一日も早く自主運営になりますように、応援しています。

③5月中旬にメールで寄せられたご意見

メッセージ: 職員について

最近、まちづくりセンターの雰囲気が暗い。今の人たちがそのまま自主運営のまちづくりセンターでも働くなら、自主運営反対です。

自主運営で、地域により寄り添った対応を求められるのに、あの人たちが窓口にいると、地域が離れていくと思います。

既に掲載済みのものは割愛しております。今後も引き続き、寄せられたご意見等はまちづくり協議会でしっかりと受け止め、今後の活動の参考にさせていただきますので、お気づきのことがございましたら、メール、Fax、電話等で皆様の声を届けていただけると幸いです。